

米國政府ヲシテ排日運動防止ノ爲有效ナル手段ヲ取ルヘキ德義上ノ義務ヲ負ハシムルニ至ルヘシ

尙翌十一月二十一日出淵大使館參事官ト極東部長ト協議ノ上國務省ニ到達セル寫眞結婚ニ對スル非難ノ要點ヲ書付トシテ送付越セリ尤モ其内容ハ素ヨリ國務省之ヲ支持スル趣旨ニハアラサルナリ（附屬書第八十六號）

四、寫眞結婚ノ禁止

帝國政府ニ於テハ大局ノ利害ヲ考量シタル後竟ニ寫眞結婚禁止ノ斷行ニ決意シタルヲ以テ幣原大使政府ノ訓令ニ基キ一九一九年十二月八日國務長官ニ面會シ帝國政府カ愈々寫眞結婚ニ依ル婦人ノ米大陸渡航ヲ禁止スルコトニ決定シタルコトヲ述ヘ米國政府ニ於テ右決定ニ關スル帝國政府ノ立場ヲ諒察シ排日立法阻止ノ爲全力ヲ盡サレンコトヲ切望スル旨力說シタルニ對シ長官ハ排日立法ヲ阻止セントスルノ態度ハ米國政府ニ於テ固ヨリ帝國政府ニ讓ラサルカ故ニ其威力ノ及フ限り最善ノ努力ヲ惜マサルヘキハ勿論ナリト言明シ尤モ中央政府ニ於テ必然其ノ目的ノ貫徹ヲ保障スヘキ法律上ノ權能ナキコトハ諒承アリ度シト附言セリ仍テ幣原大使ハ帝國政府ノ探ラントスル措置ニ付説明ヲ與ヘ訓電寫ヲ手交セリ（附屬書第八十七號）

同日ノ會談ニ於テ帝國政府ノ考案ニ付テハ國務長官ニ於テ關係當局ト協議ノ上挨拶アルコトナリ居リタルカ其後十二月十三日國務省第三次官「ロング」ハ國務長官ノ代理トシテ幣原大使ニ對シ帝國政府ノ決定ニ對シ深厚ナル満足ノ意ヲ表シ且米國政府ハ終始排日立法ノ阻止ヲ念トスルモノニシテ法律上權能ノ許ス限リ此目的ノ爲全力ヲ舉クルヲ辭セサル旨確言シ同次官ニ對スル幣原大使ノ求メニヨリ同日國務長官ヨリ右趣旨ヲ認メタル半公信ヲ同大使ニ送付越シタルヲ以テ直ニ寫眞廢止ニ關スル公式覺書ヲ幣原大使ヨリ國務長官ニ送付セリ（附屬書第八十八號）

尙元來排日立法阻止ト寫眞禁止トノ間ニハ暗黙機微ノ關係アルモ國務省當然ノ立場トシテハ兩國間ニ何等交換の關係アルモノト認メサルハ前記「ロング」次官カ幣原大使ニ説明セル所ニシテ又國務長官ノ半公信ニモ言及セリ又帝國政府ノ本件措置カ全然自發的處置タルコトニ付テモ幣原大使ハ國務長官及「ロング」次官ト十分了解ヲ得タリ

第二節 加州土地法ノ成立ト其前後ニ於ケル帝國政府ノ措置

第一、土地法ノ成立

一、「インヤン」ノ initiative measure ニヨル排日土地法制定運動

寫眞結婚婦人渡米禁止聲明ト共ニ最モ有力ナル武器ヲ奪ハレタル排日論者ハ其後日本人ノ農業上ノ發展ヲ阻止スルコトハ寫婚問題トハ別問題ナリト爲シ「インマン」ヲ會長トスル加州排日協會ハ其運動ヲ繼續シ排日臨時州會ノ開會ヲ成立セシメント努メタルカ同協會代表者會議翌一九二〇年一月十三日桑港ニ開催セラレ州知事ニ對シ臨時州會召集ノ日取ヲ定メンコトヲ要求シ若シ容レラレサルニ於テハ人民投票ニ依リ排日立法ヲ爲スヘキコトヲ決議セリ此決議ニ基キ其後「インマン」ヨリ知事ニ對シ排日臨時州會召集ノ意思アリヤ若シアリトセハ召集時期如何ヲ質シタルニ知事ハ日本人問題ノ重大ナルニ顧ミ適當ナル時期ニ於テ有效ナル處置ヲ執ルノ必要ヲ認ムルモ臨時州會ヲ召集スヘキヤ否ヤハ目下明言シ難シト回答シタル處「インマン」ハ最早知事ヲシテ臨時州會ヲ召集セシムルノ望ヲ絶チ人民立法手段 initiative measure ニヨリ排日ノ目的ヲ達セントシ同法案ニ對スル請願書ニ法定數ノ署名ヲ勸誘スルコトニ決定セリ

二、人民投票

元來加州憲法ニ定ムル人民投票ニ三種アリ

- (一) 法案ヲ直接人民ノ投票ニ付スルモノ
- (二) 法案ヲ一旦州會ノ議ニ附シ討論採決ノ後可否如何ニ拘ラス更ニ一般投票ニ付スルモノ

(三) 州會ヲ通過シタル法律ヲ一般投票ニ付スルモノ

即之ナリ此中 (一) 一個人ノ立案ヲ一般投票ニ付スルモノニシテ只直接ニ投票ニ付スルト一旦州會ノ議ニ付シタル後一般投票ニ付スルトノ差アルノミ (Initiative ト稱ス) (三) ハ州會ニ於テ制定セラレタル法律ノ可否ヲ一般投票ニ付スルモノナリ (Referendum ト稱ス)

加州排日協會ノ計畫セルモノハ第一ノ方法ナリトス其手續大要次ノ如シ

- (一) 先ツ提案者ニ於テ法案ヲ作り之ニ五萬五千九十四名(最近ノ州知事選舉ノ際各候補者ノ得タル投票總數ノ百分ノ八)ノ選舉權者ノ署名ヲ得テ選舉期日(十一月二日)ヨリ九十日前(即チ八月二日迄ニ)州務長官(知事ノ次席者)ニ請願書ヲ提出スルコトヲ要ス
- (二) 州務長官ハ右請願書ヲ受理シタルトキハ之ヲ審査シ其要件ニ缺陷ナキニ於テハ該法案竝ニ之ニ對スル贊否双方ノ議論ヲ印刷ニ付シ之ヲ各選舉人ニ配布シ且該法案ヲ印刷シタル投票用紙ヲ作り選舉當日一般投票ニ付スルコトヲ要ス而シテ前記贊否ノ議論ハ上院議長ノ指名シタル者ヨリ提出スヘキモノトス

- (三) 投票總數ノ過半數ハ法案ヲ可トシタル場合該法案ハ知事ノ裁可ヲ俟タスシテ投票數ノ計算終了後五日以内ニ其效力ヲ生ス而テ人民ハ投票ノ際只可否ノ記入ヲ爲スニ止マリ法案ノ内容ニ就

キ何等ノ修正ヲ加フルコトヲ得ス又之ニヨリテ成立シタル法案ハ更ニ同一ノ方法ニ依リ取消サルルニアラサレハ州會ニ於テ之ヲ修正シ又ハ取消スコトヲ得サルモノトス

三、請願書ノ内容ノ整備

仍テ「インマン」ハ請願書ノ内容トナルヘキ次ノ四個ノ法律ヨリ成ル草案ヲ作成シ先ツ内密ニ各方面ニ配布シ豫メ賛否ヲ徴セリ

(一) 條約ニ反對ノ規定ナキ限リ歸化權ナキ親ヨリ生レタル兒童ニ屬スル財産ノ保管及管理狀況ニ關スル詳報ヲ毎年州務長官ニ提出セシムヘキ法律案

(二) 歸化權ナキ親ヨリ生レタル兒童ノ不動産ニ對スル後見ニハ將來ハ郡公定管理人ノミ任命セラレヘシトノ規定ヲ民事手續法第一七一條ニ附加スルノ法律案

(三) 民事手續法第一八〇一條中ニ裁判所カ歸化權ナキ親ヨリ生レタル兒童ノ後見者ヲ變更スル規定ヲ増加シ其場合ヲ

(イ) 後見人カ州務長官ニ對スル報告(前記第一法案ニ定ムル報告ヲ指ス)ノ提出ヲ怠リタル場合

(ロ) 被後見人ノ不動産上ノ收益カ歸化權ナキ外國人又ハ其他親族ノ利益ニ於テ使用セラルルカ

如ク被後見人ノ不動産カ相當ノ管理ヲ受ケサル場合トスル法律案

(四) 一九一三年加州土地法ニ代ルヘキ法律案十箇條ヨリ成ルモノニシテ其重要點次ノ如シ

(イ) 歸化權ナキ外國人ハ條約ニ規定アル場合ヲ除ク外土地所有權又ハ土地ニ關スル權利ヲ獲得占有享有移轉又ハ相續スルコトヲ得ス

(ロ) 歸化權ナキ外國人カ社員中ニアルカ又ハ株式ヲ有スル會社組合又ハ法人亦同シ

(ハ) 歸化權ナキ外國人ハ農業用ノ土地ヲ所有又ハ使用スル會社組合又ハ法人ノ社員トナリ又ハ其株式ヲ所有若ハ所持スルコトヲ得ス

(ニ) 本法ノ適用ヲ避クル爲メ國人又ハ歸化シ得ル人民ノ名義ニ於テ得タル土地ニ關スル權利ハ沒收ス

其後「インマン」ハ右草案ノ檢閲竝ニ訂正ヲ州會法制局ニ依頼シタルモノノ如ク之カ加除ヲ行ヒ法律案トシテ體裁ノ整ヒタルモノヲ新請願案トシテ各方面ニ機密ニ配布セリ同案ハ前顯四法律案ヲ合一シテ一九一三年加州土地法ト合併セシメタルモノニシテ其要點次ノ如シ

(一) 歸化權ナキ外國人ニ對シ三年ノ農業借地權ヲ禁止スルコト

(二) 後見人ノ任免ニ關シテハ公定管理人ヲ以テ後見人ニ指定スルコトヲ得ト爲シ尙後見人ヲ變更

シ得ル場合ヲ包括の規定ヲ以テ舊案ヨリ擴張セル外舊案ト大差ナシ

(三) 後見人ノ届出義務ヲ規定セルコト舊案ト同シ

(四) 歸化權ナキ外國人カ社員又ハ株主トナレル法人ノ土地ニ關スル權利享有禁止ニ關スル舊案ノ規定ヲ全然除キタルコト

四、「イニシアティヴ」運動

斯クシテ三月十三日桑港ニ排日諸團體代表者會開催セラレ「インマン」ヨリ右新案ヲ提示シタル後同案ニヨリ「イニシアティヴ」運動ヲ起スコトヲ決議シタリ一方在桑港大田總領事ニ於テハ適宜之カ對應策ヲ講シ同年四月桑港商業會議所ヲ中心トスル穩和ナル米國實業家ハ排日運動ヲ阻止スル爲「インマン」「マクラッチー」(V.S. McClatchy)等ト數次會見ヲ重ヌル所アリタルモ竟ニ妥協點ヲ發見スルコトヲ得ス其後右新案ニ若干ノ修正ヲ加ヘ愈々五月二十日「インマン」ハ「イニシアティヴ」請願ノ内容タル法案ヲ發表スルト共ニ其「ステートメント」ニ於テ右法案ニ規定スル所ハ州權ニ屬シ州自身ニ於テ解決セサルヘカラサル事項ニシテ中央ノ解決スヘキ歸化問題又ハ移民問題ヲ包含セラレサルヲ以テ該法案ハ條約違反若クハ差別待遇ヲ爲スモノニアラサルコトヲ辯明シ五月二十五日該請願書ヲ排日諸團體ニ配布シ南北兩加州ニ互リ盛ニ署名勸誘ニ着手セリ

其結果請願書ヲ州務長官ニ提出スヘキ法定期日タル八月四日ニ於テ約八萬四千ノ署名ヲ獲得シ法定數ヲ超過スルコト二萬八千トナリ同請願ハ成立スルコトナレリ其後排日家ハ陣容ヲ整ヘ其運動愈々旺トナリ竟ニ同法案ハ十一月二日一般投票ノ結果約三對一ノ多數ヲ以テ成立四日州務長官ハ投票計算ヲ正式ニ宣言シ九日ヨリ當然法律トシテ效力ヲ生スルニ至レリ之一九二〇年加州土地法トス(附屬書第八十九號)

五、加州土地法ノ要旨

一九二〇年加州土地法ノ要旨ハ次ノ如シ

(一) 歸化權ナキ外國人ニ對シ土地所有權ハ勿論一九一三年加州土地法ノ認ムル三年ノ借地權ヲモ禁止スルコト(第二條及第八條)

(二) 歸化權ナキ外國人カ不動産ノ取得移轉ヲ目的トスル法人ノ社員トナリ又ハ其株式ヲ取得スルコトヲ禁止スルコト(第三條末項)

(三) 歸化權ナキ外國人又ハ株主ノ過半数カ之等外國人ヨリ成ル法人ハ未成年者ノ財産ニ對シ後見人タルヲ得サルコト而シテ右後見無資格者ヲ兩親トスル未成年者ノ後見人ハ郡ノ公定管理人又ハ其他適當ノ個人若ハ法人ヲ以テスルコト(第四條)

- (四) 歸化權ナキ外國人ノ財産ヲ後見人又ハ其他ノ受託人ノ資格ニ於テ管理若ハ支配スル者ハ每年州務局ニ該財産ノ狀況ニ關シ一定事項ノ届出ヲ爲スノ義務アルコト(第五條)
- (五) 本法ノ適用ヲ免ルル意思ヲ以テ不動産ノ賣買讓渡等ヲ爲シタルトキハ其形式ノ如何ニ拘ラス之ヲ無効トスルコト(第九條)

第二、帝國政府ノ措置

一、幣原大使ノ申入ト米國政府ノ態度

翻テ帝國政府ニ於テハ一九二〇年三月前記加州ノ形勢ニ鑑ミ米國政府ニ對シ之カ對策ニ關シ最善ノ盡力ヲ與ヘラレンコトヲ求ムルノ必要ヲ認メ在米幣原大使ニ訓令スル所アリ同大使ハ同月二十二日本件主任官タル「ロング」次官(「ランシング」長官辭任後未タ「コルビー」長官ノ就任ヲ見ルニ至ラス)ニ面會シ一九一三年排日立法ノ歴史竝ニ今次ノ立法運動ノ目的經過等ヲ述ヘ現狀ヲ放任スルニ於テハ日米兩國ノ關係上極メテ不快且危險ナル情勢ヲ誘致スルナキヲ保セス一方ニ於テ帝國政府カ終始兩國ノ親交ニ重キヲ置キ之カ爲百方苦慮シツツアルハ米國政府ノ諒トスル所ナルヘク最近寫眞結婚婦人渡航禁止ヲ斷行セルモ一ニ此方針ニ出テタルモノナリ故ニ若シ加州人民ニシテ帝國政府ノ苦衷ヲ無視シ依然排日運動ヲ繼續スルニ於テハ自國民ニ對スル立場ヲ困難ナ

ラシメ遂ニ國論ノ激昂ヲ抑制スルノ途ナキニ至ルヘキヲ以テ帝國政府ハ米國政府ノ切實ナル注意ヲ喚起センコトヲ訓令セリト申入レタルニ「ロング」ハ右帝國政府ノ主張ノ當然ナルコトヲ認メ排日運動防止ノ爲及フ限り誠意努力スルハ國務省ノ規定方針ナリト確言セリ(附屬書第九十號)

踵テ國務長官「コルビー」新任後幣原大使ハ更ニ政府ノ訓令ヲ體シ四月三日同長官ト會見ノ機會ニ於テ加州問題ニ關シ「ロング」次官ニ申入レタル趣旨竝ニ日本ノ輿論ノ日日昂マリツツアルコトヲ敷衍シ其ノ注意ヲ促シタルニ同長官ハ篤ト諒承シ本件ノ發展ニ關シテハ自ラ深甚ナル注意ヲ加フヘキ旨懇切ニ答ヘタリ而シテ其後幣原大使ハ屢次國務長官等米國當局ニ注意ヲ促ス所アリタルカ米國政府ニ於テハ過去ノ經驗ニ顧ミ主トシテ國務省其他華盛頓ニ於ケル有力者ヨリ夫々加州地方ニ於ケル幾多ノ友人ニ私信ヲ送り内密ニ努力ヲ懇囑スルノ方法ヲ執ルニ止メ中央政府ヨリ加州官憲ニ立法運動ヲ阻止セムコトヲ請求シ又ハ其他公式ノ意見ヲ表示スルコトヲ避ケタリ殊ニ當時ノ政治季節ニ際シ反對黨ニ屬スル加州知事トノ接觸ニ付テハ一層慎重ニ行動スル必要ヲ認メタルモノノ如シ

六月十九日幣原大使國務省極東部長「マクマレー」ニ面會シ加州排日立法請願成否ノ見込ヲ問ヒ

タルニ同官ハ過般請願配布以來未タ顯著ナル發展ヲ見サルモ結局法定數ノ署名ヲ得ルハ困難ナラサルモノノ如ク國務省ニ於テモ痛心シ居レリト語リ加州ニ於テハ中央政府カ加州ニ對スル態度常ニ冷淡ニシテ何等同州利益ノ保全方法ヲ講セサルヲ憤慨スルモノノ如ク此際中央政府ニ於テ公然加州ヲ非難スル態度ヲ示ストキハ却ツテ激烈ナル反動ヲ招クニ止マルヘシ之國務省ノ苦心スル所ナリ幸ヒ今回桑港ニ民主黨大會ノ開催セラルルコトナリタルニ付之ヲ利用シテ同地ニ人ヲ派シ世人ノ注意ヲ惹クコトナクシテ排日問題ニ關スル解決策ヲ案スルノ好機ヲ得ヘク殊ニ「モリス」大使ハ加州各方面ノ人士ト接觸シ同州ノ正當ナル利益保全ノ爲ニハ中央政府ニ於テ適當ナル新辦法ヲ講スルニ躊躇セサルコトヲ説得シ以テ地方的立法運動ヲ阻止スルコトニ内定セリト語レルカ以テ本問題ニ對スル當時米國政府ノ態度ヲ推知スルニ足ルヘシ

二、民主黨大會ト「イニシアティヴ」運動

斯ノ如クニシテ在米幣原大使ハ非公式ニ米國政府當局ノ注意ヲ喚起シ同政府ニ於テモ誠意アル態度ヲ示シタルモ州知事ハ六月末桑港民主黨大會開催ノ機ニ乘シ從來ノ沈黙ヲ破リ國務長官ニ對シ突然書面ヲ送り排日立法ノ緊要ナルコトヲ強調シ次テ民主黨大會ハ七月二日同黨政綱ノ發表ニ當リ同黨カ亞細亞移民排斥ヲ支持スルコトヲ宣明シタル爲「イニシアティヴ」運動ハ氣勢ヲ擧ケ遂ニ

八月四日即チ請願書ヲ州務長官ニ提出スヘキ法定期日ニ於テ法定數ヲ超ユルコト約二萬八千ノ請願署名數即チ八萬三千六百七十二達シ竟ニ成立セリ其後「フリーラン」等排日論者ハ十一月二日總選舉ノ際ニ於ケル「イニシアティヴ」法案ニ通過ヲ達成セシメムカ爲畫策ヲ爲ス所アリ九月二日加州各地排日團體代表者約三十名ヲ桑港ニ招集シ之等諸團體ヲ合セ一ノ統一機關ヲ組織センコトヲ決議シ之ニ加州排日聯合會 (the Japanese Exclusion League of California) ナル名稱ヲ付シ「インマン」ヲ常設議長ニ推舉シタリ同會ハ「イニシアティヴ」立法ヲ當面ノ目的トセルモ更ニ進シテ將來不同化人種ノ入國ヲ防止スルニ足ルヘキ米國中央立法ヲ達成セムコトヲ目的トシ爾來猛烈ナル運動ヲ開始セリ

三、國務省ノ「ステートメント」發表ト土地法ノ成立

米國政府ニ於テハ民主黨大會ヲ機トシ「モリス」大使ヲ加州ニ派シ同大使ハ七月歸京後幣原大使ト屢次意見交換ヲ爲シタルカ米國政府ノ提議ニヨリ九月末ヨリ加州問題ヲ含ム排日問題ノ根本解決ヲ目的トシ兩大使間ニ非公式協議(第十二章參照)開催セラルルコトナレリ然ルニ一方加州ノ形勢ハ何等改善スルコトナク關係日本領事適宜指導セル熱心ナル對抗運動ニ拘ラス大勢愈々我方ニ不利トナレリ然ルニ米國政府トシテハ當面ノ此問題ニ對シテハ既ニ述ヘタル如ク單ニ內密ノ阻

止運動ヲ爲シ來レルニ止マリ未タ公然ト其ノ態度ヲ明カニスル所ナカリシヲ以テ幣原大使ハ此際米國政府ヲシテ「イニシアテ、ヴ」立法反對ノ聲明ヲ爲サシメ立法運動ニ打撃ヲ與フルノ必要ヲ認メ九月末ヨリ米國側ニ折衝スル所アリ初メ米國政府當局ニ於テハ一九一三年土地法制定當時ノ先例ヲ理由トシ右聲明カ何等效果ヲ齎ス所ナシトシテ逡巡躊躇セルカ其後十月十九日國務長官トノ會見ニ於テ同大使ハ國交ノ大局上緊要ノ處置ナリト屢次力説セル結果竟ニ同長官ハ選舉日前ニ米國政府ノ本問題ニ對スル態度ヲ公表スルニ同意セリ斯クテ國務省「ステートメント」(附屬書第九十一號)ハ一般投票ノ前日タル十一月一日ニ公表セラレ加州排日家ニ恐慌ヲ來サシメタルモ竟ニ大勢ヲ動カスコト能ハス同月二日ノ一般投票ノ結果ハ贊成六六八、四八三反對二二二、〇八六即チ三對一ノ多數ヲ以テ通過シ十二月四日州務長官ハ投票ノ結果ヲ正式ニ宣告スル所アリタルヲ以テ加州憲法ノ規定ニ依リ右正式宣告後五日ヲ經テ十二月九日ヨリ該法案ハ當然法律トシテ效力ヲ發生スルコトナレリ

四、帝國政府ノ覺書

加州土地法ノ成立ニ對シテハ帝國政府ニ於テハ米國政府ニ對シ強硬ナル抗議ヲ提出スルノ必要ヲ認メタルモ當時幣原「モリス」協議進捗中ナリシヲ以テ暫ク其成行ヲ注視スルコトナシ唯本問

題ニ對スル政府ノ立場ヲ明確ナラシムルニ止メ在米幣原大使ハ政府ノ訓令ヲ體シ一九二一年一月三日「モリス」大使(國務長官代理「デヴィス」ハ前年末通信會議休會後引續病氣中)ニ對シ覺書

(附屬書第九十二號)ヲ手交シ同大使ヨリ長官代理ニ取次方ヲ依頼セリ該覺書ノ要旨左ノ如シ

(一) 加州新土地法ハ一九一三年ノ立法ヲ峻嚴苛酷ナラシメタルモノニシテ從ツテ帝國政府カ一九一三年土地法ヲ以テ不當且差別的ニシテ正義公道ニ悖リ且日米現行條約ノ條章及精神ニ背反スルモノナリト宣明セル見解ハ今回ノ立法ニ對シ一層痛切強硬ニ抱懷スル所ニシテ該立法ニ對シ遺憾ノ意ヲ表明セサルヲ得ス

(二) 尤モ目下幣原「モリス」兩大使間ニ於テ非公式ニ本件解決ノ爲眞率且剴切ノ協議ヲ進行シ居ルヲ以テ同協議力速ニ圓滿ニ結了シ兩國政府力之ヲ査閲是認スルニ至ラムコトヲ切望スルモノナリ

五、米國政府ノ回答覺書

一九二一年一月二十日幣原大使國務省ニ「モリス」大使ヲ往訪シタルニ「モリス」大使ハ加州土地法ニ關スル米國政府回答覺書(附屬書第九十三號)ヲ手交セリ該覺書ノ要旨左ノ如シ

(一) 一九一三年加州土地法ニ關スル日米交渉ニ當リ國務省ハ本法ハ現行日米通商航海條約上ノ問

題ト爲スニ足ラストノ立場ヲ採レリ交渉ノ主題タリシ土地所有權ハ同條約ヨリ除外セラレタルハナリ而シテ米國政府ハ今尙此ノ確信ヲ持スルモノニシテ本件加州土地法ハ日米條約ノ條章及精神ニ悖反スルモノト認メス

(二) 又一九一三年當時ノ交渉ニ於テ米國政府ハ條約ニ基ク個人ノ權利ノ侵害ニ對シテ訴訟ノ途アルコトヲ主張シタルモ一九一三年土地法實施後米國政府ハ右ニ關スル裁判アリタルコトヲ聞カサルヲ以テ在加州日本人ハ土地法ニ對シ帝國政府ノ主張スル條約違反ヲ楯トシテ不服ヲ唱フヘキ理由ヲ認メサルモノト云ハサルヲ得ス從ツテ米國政府ハ今尙條約ニ基ク法律問題ニ對シテハ裁判判決カ外交交渉ノ前提トナルヘシトスル前說ヲ反覆セサルヲ得ス

(三) 尤モ本件中ノ純法律的問題ノ確定前ト雖モ米國政府ハ帝國政府及國民カ本件立法ヲ性質上差別的ナリトスルヲ無視スルモノニアラスシテ兩國ノ名譽ト利益トニ合致スヘキ満足ナル解決ヲ希念シ目下進行中ノ「モリス」幣原兩大使間ノ非公式協議開催ヲ認メタルモノナリ而シテ米國政府ハ兩大使カ兩國交渉ノ基礎案トシテ提出スヘキ成案ニ對シ慎重ニシテ同情アル考量ヲ加フルヲ辭セサルモノナリ

右覺書ヲ受領セル際幣原大使ハ該覺書前段ニ於テ加州土地法ハ條約上ノ權利ヲ侵害セルモノニアラサルコトヲ說述シアリ然ルニ右ニ關シテハ先年交渉ノ際帝國政府ハ一々項目ヲ舉ケテ其侵害セル所以ヲ說述シ且其通牒ノ最後ノモノニ對シテハ米國政府ヨリハ未タ何等ノ回答ヲ與ヘ居ラス漠然ト只條約上ノ權利ヲ侵害セストノ前說ヲ反覆スルノミニテハ帝國政府ニ於テハ到底之ヲ容認スルコトヲ得サルヘシ將又本件カ問題ノ性質上當然外交交渉ノ目的トナルヘキモノニシテ豫メ日本側ヨリ司法上ノ救濟手段ヲ盡スノ義務ナキコトハ日本政府ノ屢次言明セル所ナリト述ヘタルニ「モリス」大使ハ將ニ引退セムトスル米國現政府トシテハ前年ノ主張ヲ此際維持シ置クノ外ナク覺書ノ前段ハ此趣旨ノ下ニ起案セラレタルモノナルモ米國政府ノ本問題ニ對スル眞意ハ覺書ノ後段ヲ以テ了解セラレ度シト述ヘタリ